

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	163人	社会	163人	数学	163人
	理科	163人	英語	163人		

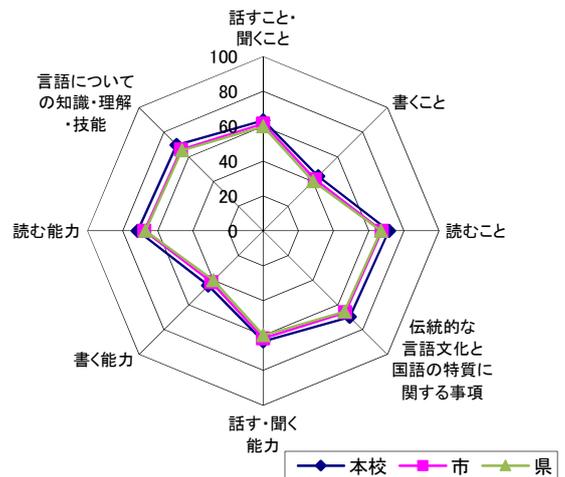
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.4	61.6	59.9
	書くこと	44.3	41.7	40.1
	読むこと	71.5	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	63.4	61.6	59.9
	書く能力	44.3	41.7	40.1
	読む能力	71.5	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	69.7	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

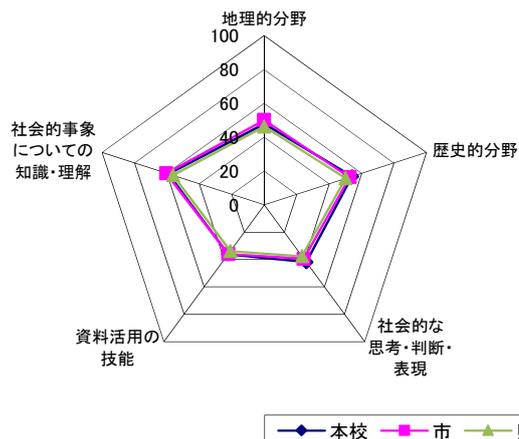
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○宇都宮市の平均より、1.8%高かった。事実と意見との関係に注意して問題を解くことができた。 ●要約の問題の正答率が低かった。	・スピーチや話の内容はある程度内容は理解できるが、要約して回答するような問題は正答率が低かった。物語や話の要約や、要点を捉えることが今後の課題と考えられるため、聞き取りの単元や、聞き取りのテストを通して要点を捉える課題に重点的に取り組ませる。
書くこと	○宇都宮市の平均より2.6%高かった。 ●鑑賞文の最後の段落を書き直す問題の無回答率が高かった。	・記述式の問題で無回答率が高かった。自分で考えて言葉にすることや、多少の文を書くことに抵抗がある生徒が多いようなことが課題として挙げられた。授業中に空欄へ当てはまることを補う問題を用意したりするなど、書く習慣づけができるような指導を行っていく。
読むこと	○宇都宮市の平均より、3.9%高かった。物語や説明文を読んで読解する力は身につけていると考える。 ●文学作品の表現の特徴を捉えることの正答率が低かった。	・文学作品の特徴を捉える問題の正答率が低かった。条件が複数あるものを、根気強く解かせられるよう、授業中に複数の条件がある課題に取り組ませていく。また、話すこと・聞くことと関連させ、要点を捉える指導も読む教材で取り組ませていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○宇都宮市の平均より3.6%高かった。 ●特に、文節を答える問題の正答率が低く、漢字の無回答率も高かった。	・再度、文節や単語、漢字の読み書きや歴史的仮名遣いなど、を復習させる。2学年では用言の活用など、更に文法での学習内容が増えるため、その都度復習をしながら指導していく。繰り返し行うことを通して定着させていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	47.8	50.0	46.2
	歴史的分野	54.1	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	41.9	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	36.1	35.9	33.8
	社会的な事象についての知識・理解	59.0	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

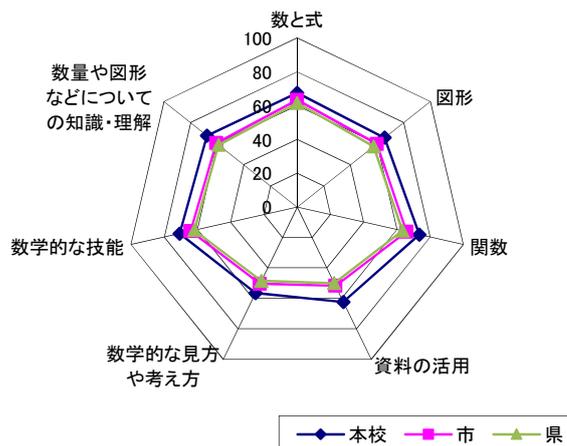
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○設問ごとの無解答率が、県や市と比較して低く、記述式の問題に対して解答する努力が見られた。その甲斐もあり、記述式の正答率において、県と市の平均を超えることができた。</p> <p>○教科総合としては、県の平均を上回ることができた。分野別にみると、地理分野は、県の平均を超えることができた。</p> <p>●1学年の初めごろに既習した内容の正答率が低かった。</p> <p>●資料活用 of 問題は、県と市の平均を上回っているが、正答率を高めていく必要がある。</p>	<p>・学習してすぐの内容の正答率が高いため、既習内容の復習を、自主学習などの家庭学習を通じて行わせていく必要があると考える。また、定期的に小テストなどの確認テストを実施し、内容の確認を行うようにする。</p> <p>・資料活用 of 問題は、資料を多く読み取る問題での正答率が低いため、日ごろの授業で取り入れ、訓練していく必要がある。</p>
歴史的分野	<p>○設問ごとの無解答率が、県や市と比較して低く、記述式の問題に対して解答する努力が見られた。その甲斐もあり、記述式の正答率において、県と市の平均を超えることができた。</p> <p>○教科総合としては、県の平均を上回ることができた。分野別にみると、歴史分野は県と市の両方の平均を超えることができた。</p> <p>●1学年の初めごろに既習した内容の正答率が低かった。</p> <p>●資料活用 of 問題は、県と市の平均を上回っているが、正答率を高めていく必要がある。</p>	<p>・学習してすぐの内容の正答率が高いため、既習内容の復習を、自主学習などの家庭学習を通じて行うように指導していく必要があると考える。また、定期的に小テストなどの確認テストを実施し、内容の確認を行うようにする。</p> <p>・学習意欲が高く、家庭学習を行う生徒が多いため、学習内容の指導助言を行うことで、学習内容に偏りがないようにする。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.5	63.3	61.5
	図形	65.7	59.8	57.4
	関数	73.5	65.9	63.4
	資料の活用	62.4	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	56.4	50.4	48.5
	数学的な技能	70.7	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	67.6	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

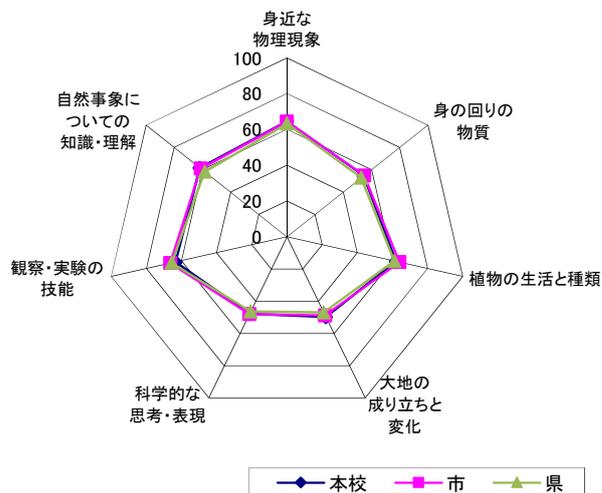
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○市の平均と比べ、4.2ポイント上回った。</p> <p>○正負の数の計算や一次方程式を解く問題など、基礎的な計算力は高い正答率である。</p> <p>●今回の全ての問題で、自然数を選ぶという知識の問題が市・県の平均より唯一正答率が低かった。基本的な用語の理解に課題が見られた。</p>	<p>・他の領域でも見られること、そして本校だけの問題ではないが、言葉で説明する問題が苦手である。自分なりの考えをしっかりと持ち表現する訓練を大切にしたい。</p> <p>・数え方の工夫から規則性を考える問題に今後も慣れさせるようにしていきたい。</p>
図形	<p>○市の平均と比べ、5.9ポイント上回った。</p> <p>○円柱の展開図で側面の長さ、おうぎ形の面積を求める問題は、市・県平均を大きく上回った。</p> <p>●言葉から図をイメージすること、展開図から完成した立体をイメージすることに苦手意識が見られた。</p>	<p>・数学的用語をつかって説明できるようにする活動をより意識して取り入れたい。</p> <p>・立体模型のモデルやICTを活用し、視覚的な理解が深められるようにしたい。</p>
関数	<p>○市の平均と比べ、7.6ポイント上回った。</p> <p>○座標を与えられた点の記入、反比例の表の作成、グラフの読み取りの問題は、市・県平均を大きく上回った。</p> <p>●比例の関係の式を求める問題に課題が見られた。</p>	<p>・他の領域にも言えることだが、基礎的な技能は毎時間の振り返りの実施により身につけており、さらに継続させたい。</p> <p>・活用の問題では、表・式・グラフを関連させて考える力をつけたい。</p>
資料の活用	<p>○市の平均と比べ、10.7ポイント上回った。</p> <p>○他の領域と比べると、得点が高い層と低い層の差が小さい。</p> <p>●ヒストグラムから中央値を読み取る問題に課題が見られた。</p>	<p>・代表値について、それぞれの値を比較したり、値の意味を比較したりして、代表値の求め方や利用の仕方を理解させる活動を取り入れたい。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	64.5	64.3	63.2
	身の回りの物質	54.5	54.8	52.8
	植物の生活と種類	62.1	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	49.8	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	47.8	48.0	46.4
	観察・実験の技能	63.4	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	61.8	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

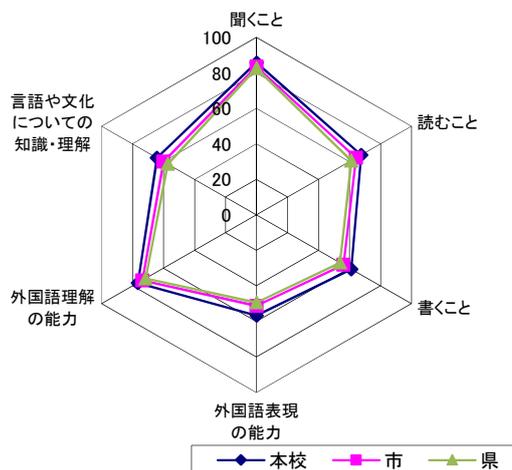
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>○正答率は、市や県よりも上回っている。</p> <p>○光の進み方や音の高低と振動数の関係については、高い正答率である。</p> <p>●力を矢印で表す方法や、鏡に映したときの作図など、実際に目にみえないものをイメージする問題に対する苦手意識がみられた。</p>	<p>・記述問題や活用問題は、身近な実験例を見せてイメージさせることで、まず基本の定着をさせていきたい。</p> <p>・作図を苦手としている生徒が多いので、日頃からワークシートを使って練習させていく工夫をしていきたい。</p>
身の回りの物質	<p>○正答率は、県の平均を上回っているが、市の平均よりは下回った。</p> <p>○状態変化、水素の性質など基礎的な内容は理解できている生徒が多い。</p> <p>●濃度の計算が苦手な生徒が見られる。</p>	<p>・濃度の計算は、公式の暗記だけでなく単位で計算する考え方を身につけさせ、身近な実験例を見せてイメージさせることを授業で実践したい。</p> <p>・カルメ焼きを作ったときに発生する気体など、日常生活と結びつけて事象をとらえることができるようしたい。</p>
植物の生活と種類	<p>○正答率は、県の平均を上回っているが、市の平均よりは下回った。特に、顕微鏡を正しく操作する手順の問題の正答率は高かった。</p> <p>●蒸散の実験の問題では、記述式の正答率が低かった。</p>	<p>・顕微鏡の使い方はよくできており、名称などをきちんと覚えることができるよう繰り返し指導していきたい。</p> <p>・言葉で説明する問題が苦手である。必要な語句を使って表現する力をつけさせていきたい。ワークシートなどを工夫して、考察する力やふりかえりをしていく必要がある。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>○正答率は、市や県よりも上回っている。地震の語句や、堆積岩の特徴を答える問題の正答率が高かった。</p> <p>●白色や無色の鉱物の種類の問題の正答率は低かった。</p>	<p>・基本的な重要語句については、よく覚えられているので、今後も丁寧な説明と、反復学習を行っていきたい。</p> <p>・鉱物標本などを活用して、実物の観察に時間をかけていきたい。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	85.8	83.6	82.6
	読むこと	67.5	64.2	61.2
	書くこと	61.2	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	56.7	51.2	49.4
	外国語理解の能力	76.6	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	64.3	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○全般的によくできている。スピーチの内容をよく聞いて適切な答えを選ぶことができている。点数では、県や市の平均を上回っている。</p> <p>●放送分の中で、わからない単語や表現があると聞き取れない傾向にある。また、読まれるスピードが少し早いと聞き取るのが難しい生徒もいるようだ。</p>	<p>・やはり普段の授業で、リスニングの問題を多く取り入れるなど、教師がなるべく多く英語を話すことが大事である。また、基本的な表現のやりとりを、会話練習を積極的に取り入れることで、自然に耳から覚えるような活動も効果的と思われる。</p>
読むこと	<p>○県や市の平均を大きく上回っており、読み取りの力がついてきていることがわかる。指示語の問題については、定期テストで同様の問題を解いているため、よくできている。</p> <p>●人称代名詞の理解が不十分である。人称代名詞の活用表では覚えていても、文章の中で適切な形を選ぶ問題ではその区別がしっかりできておらず、点につながらない。</p>	<p>・ある程度まとまった文章を読む練習を多く取り入れる。制限時間を設けて読ませるなど工夫をし、読解の力をつけさせたい。また、教科書の音読を積極的に行い、読み取る力とともに単語を正確に読める力も向上させたい。</p>
書くこと	<p>○県や市の平均を大きく上回っている。並べ替え問題では、日頃の語順トレーニングの成果がよくできている。また、買い物表現は馴染みがありよく理解しているため、正答率も高い。</p> <p>●英文を作る際語順が未定着であるようだ。英作文では、既習事項を使って自分の言いたいことを正確に書くことが苦手である。</p>	<p>・既習の表現を確認しながら、英作文で有効な表現を教師側が提示し、3文程度の英文を書く練習を取り入れる。また、語順については、引き続き“語順トレーニング”を活用し、各文法事項のポイントをしっかりと押さえた学習ができるようにする。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が94.5%、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が79.9%、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答70.9%で、いずれも県市平均を上回っている。このことから、おおむね家庭学習の習慣はついていると考えられる。今後も個々の学習状況に応じて、家庭学習の内容を工夫改善するような指導を継続していきたい。

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答が92.7で県市平均を上回っている。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」は県市平均を上回っているが、肯定的回答が70.3%である。今後も生徒が将来を見据えて学習に主体的に取り組めるよう指導をしていきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答が、95.2%で県市の平均を上回っている。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答が92.1%で、県市の平均を上回っている。このことから、責任をもって生活し達成感をもってやり遂げていると考えられる。引き続き、自己有用感を育てるような指導をしていきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答が44.2%、「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答が70.9%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答が66.1%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答が28.5%で、いずれも県市平均より下回っている。今後も各授業や学級活動において、言語活動の充実を図り、コミュニケーション力や集団における自己有用感を育てていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答が52.1%で、県市の平均を下回っている。各教科や技術科、総合的な学習の時間等に図書館やPCを使い、有効な調べ方を学習する機会を計画的につくっていききたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	国語・数学・英語は、すべての領域等・観点において、県市平均を上回っている。特に数学のポイントが高い。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答が県市平均を上回っている。しかし、「自分の考えを文章にまとめることは難しい」、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」のポイントが県市平均を下回っている。
家庭学習の充実	各学年で、自主学数ノートを使用して、自主学習を毎日行うように指導を行っている。	「家で学校の宿題をしているという」肯定的回答が94.5%と高く、自主学習を行う習慣が身についていると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭で自主学習を毎日行うことができているという結果は出ているが、自分で考えた勉強をしているの割合は、60.6%である。	自主学習の内容の改善	学習内容の改善に取り組ませていく必要がある。模範になるような学習内容を示し、学習の方向性を示す。また、授業においても、家庭学習の進め方を示す必要がある。
各教科で単元に応じて、効果的な言語活動が充実するような授業の工夫を行っているが、生徒は自分の行動や発表に自信をもっている生徒が44.2%である。	話し合いや発表の仕方の工夫や改善	各教科で、ペアや少人数による活動を通して、発表することに抵抗がなくなるような機会を増やす。また、発表に対して肯定的な意見や質問などができるように工夫する必要がある。